

学校（園）・家庭・地域の連携・協働による教育支援活動を充実させましょう

管内では、各校が多く地域ボランティアを活用しており、平成26年度の活用人数はのべ6,542人にのびりました（「平成26年度学校支援センター運営推進状況調査」）。学校・家庭・地域が連携し、地域ぐるみで子どもたちを育てていこうという気運をより一層高め、たくましく生きる力の育成に向け教育支援活動を充実させていきましょう。



◆◆ 地域人材の活用状況について ◆◆

各校では、様々な場面で地域ボランティアに協力してもらっています。学習面では、国語の書写指導、算数のそろばん指導、社会科の歴史講話、放課後の学習指導などがあります。学習以外の場面では、登下校時の交通安全指導、部活動の技術指導などがあります。

交通安全指導では、学校と地域が協力して子どもたちを守っていくという目的が明確になっており、日常的な活動になっている学校もあります。学習面の支援においても同様に、単に技術指導の補助としてではなく、誰に、何のために、どのように支援に入ってもらえるかを明確にし、子どもたちにとって有意義な活動となるようにしていくことが重要です。また、学校における交流を通して地域の方の豊富な知識や技能を子どもたちに還元することは、子どもたちだけでなく地域の方も自己実現を図っていくことにつながっていきます。

◆◆ 地域人材を活用するメリットについて ◆◆

学校支援センターを機能させ、地域ボランティアを地元の教育力として学校の教育活動に積極的に取り入れていくメリットは、次の2点があります。

- ・ 学校の教育活動の充実
- ・ 地域住民が自らの経験を生かす場の提供

地域ボランティアの支援を得て、教員がもつ力をさらにアップすることで学校の総合的な教育力を高め、教育活動全体の充実を期待できます。また、地域ボランティアの方に学校と深くかかわっていただくことは、地域住民の活動の拡充と地域住民のまとまりができることにもつながります。学校と地域がかかわり合っていくことが、お互いに学校づくり、地域づくりにつながっていきます。



◆◆ 地域と共にある学校運営の実現に向けて ◆◆

地域ボランティアの方に学校に積極的に入ってもらうことで、各学校ではさまざまな成果を感じています。

- ・ 学校と地域の信頼関係が強化できている。
- ・ 子どもたちがいろいろな方とかかわる機会が増え、学習意欲や生活習慣の改善に結びついている。
- ・ 学校への理解・協力が進み、学校課題の解決や学校の地域貢献活動の充実につながっている。

地域の方に学校支援センターのコーディネーターを依頼し、地域ボランティアの方との連絡・調整をするとともに、地域ネットワークの中心として活動してもらっている学校もあります。さらに、このような取組を基に、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール*）を導入し、学校・家庭・地域が一体となって地域全体で子どもたちを育てていこうという体制づくりを進めている学校もあります。

学校は目指す児童生徒像を明確にして、地域へ発信するとともに、地域の方に担っていただきたい役割を具体的に示していくことが大切です。地域ぐるみで子どもたちを育てていくという基盤を形成し、学校・家庭・地域の連携・協働による教育支援活動の充実を図っていきましょう。

* 参考資料「コミュニティ・スクールって何?!～魅力からつくり方まで、お教えします～」(平成27年7月文部科学省初等中等教育局参事官付)

[文部科学省Webページ http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/school/detail/1361007.htm]